

第六次総合計画 施策評価シート(令和元年度)

3-①

施策

環境保全と地域の社会・経済活動が調和した、持続的に発展する地域づくりを推進する

担当部局

環境リサイクル局, 建設局, 文化産業局, 保健福祉局, 教育委員会, 総務局, 企画財政局



【快 適】 めざすまちの姿 経済や開発による発展と環境保全のバランスが保たれている

市の基本方針

- 良好な環境を次世代に引き継ぐために、市民や市民公益活動団体、事業者と連携して、地域の環境保全に努めます。
- 地域住民とともに多様な生態系の保全活動に取り組み、市民が自然にふれあうことのできる場の提供を図ります。
- まちの緑化を推進し、潤いと安らぎのある生活空間の形成をめざします。
- 環境を良くすることが経済を発展させ、地域経済が活性化することによって環境も良くなるといった環境と経済の好循環を生み出していくことをめざします。

数値目標

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
自然環境に配慮したまちづくりができていると思う人の割合	↑	市民アンケート調査で「自然環境に配慮したまちづくりができていると思いますか。」という設問に対して、『できている』『どちらかというのできている』と回答した人の割合。
		<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、6.1ポイント上がり、前年度に比べ、0.3ポイント上がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P30】</p> <p>(Ⅱ) 「できている」「どちらかというのできている」人の割合は、年齢が上がるごとに、増える傾向にあるが、50歳代が低い傾向にある。地区別では、庄地区が20.0%と最も低い。</p> <p>(Ⅲ) 「できていない」+「わからない」(46.6%)の底上げと、「どちらかというのできていない」(18.5%)をどれだけ、「どちらかというのできている」に移行できるかが重要となる。</p>
地域の自然保護・環境保全に配慮した取り組みを行っている人の割合	↑	市民アンケート調査で「あなたは、自然保護・環境保全に配慮した取り組みをおこなっていますか。」という設問に対して、『おこなっている』『いらかおこなっている』と回答した人の割合。 ※H23, H24の設問は「あなたは、地域の自然保護・環境保全に配慮した取り組みをおこなっていますか。」
		<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、14.5ポイント下がり、前年度に比べ、3.2ポイント下がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P31】</p> <p>(Ⅱ) 20歳代(23.6%)と50歳代(28.7%)が低い傾向にあるが、「行っていない」割合は、年齢を追うごとに減少傾向にある。</p> <p>(Ⅲ) 微減であり、依然として割合が低いため、環境保護、環境保全に対して、市民の関心が高まっていないものと考えられる。</p>

まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
多様な生き物が生息している自然環境が身近にあると感じる人の割合	▲	市民アンケート調査で「多様な生き物が生息している自然環境が身近にあると感じますか。」という設問に対して、『感じる』と回答した人の割合。 ※H21(基準値)は「多様な生き物が生息している自然環境が身近にあると思いますか。」という設問に対して『あると思う』と回答した人の割合。
		<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>(Ⅰ) 実績値は、基準年に比べ、2.3ポイント下がり、前年度に比べ、1ポイント下がった。 【「まちづくり指標」アンケート調査結果報告書P32】</p> <p>(Ⅱ) 「感じる」人は、年齢別では30%前後と大きな差はいが、地域別では、水島(21.0%)、玉島(25.7%)、茶屋町(14.3%)と他地域に比べて低い。</p> <p>(Ⅲ) 外来種等の生息域が拡大しており、多くの生物種の生息域が浸食されていることも、目標値に大きく達しない要因の一つと思われる。</p>

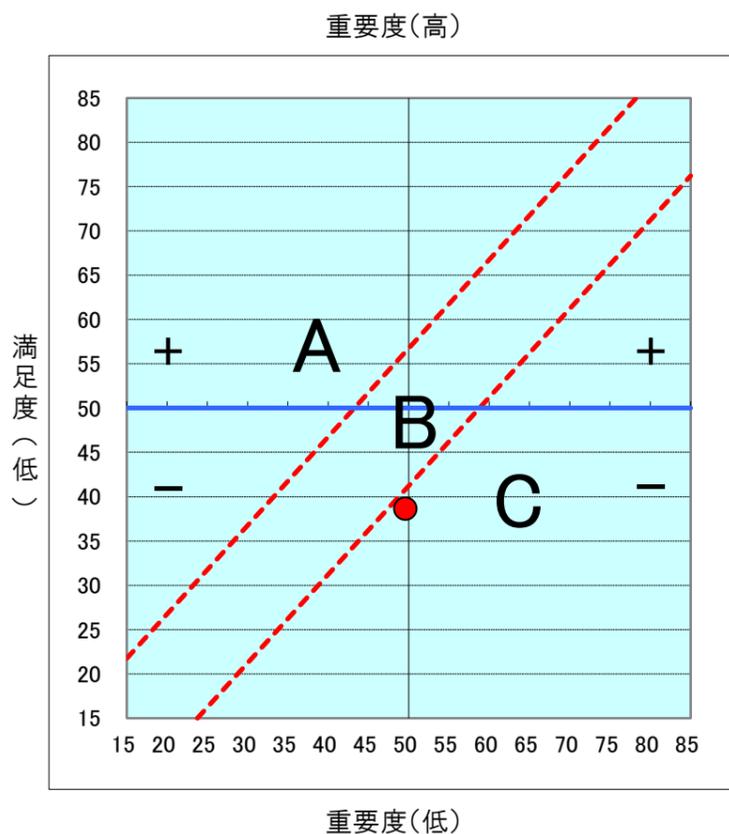
まちづくり指標	目指す方向性	算出方法
地域の自然保護・環境保全に配慮した取り組みを行っている企業の割合	▲	倉敷市環境基本計画に基づく企業アンケート調査で、「環境対策について、取り組んでいるものへチェックしてください。」という設問に対して、『地域の自然保護・環境保全に配慮した取り組みを行っている』と答えた企業の割合。 ※2年に1回の調査
		<p>動向(Ⅰ)／内訳(Ⅱ)／分析(Ⅲ)</p> <p>※平成30年度は調査を行っていないため、実績値なし。</p>

施策を推進する主な事業の評価

区分	事業名	目的(Ⅰ)／平成30年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	H30年度決算額(千円)
	環境基本計画推進事業	(Ⅰ) 地域の環境保全等に関する施策を総合的かつ計画的に進めることを目的として実施した。 (Ⅱ) 倉敷市環境審議会を年2回開催するとともに、2,000人を対象とした市民アンケートを実施した。また、年次報告書として平成30年度版倉敷市環境白書を500部作成し、公共機関等へ配布するとともにインターネットへ掲載し、市民への周知啓発を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	877
公創	エコアクション21推進事業	(Ⅰ) 環境配慮経営を促進することで、ごみ減量化や省エネの推進等の取組を進めることを目的として実施した。 (Ⅱ) エコアクション21を認証取得している市内事業者8社に対して、認証更新のための費用を補助した。また、認証取得研修会(導入セミナー)を実施し、平成30年度は8事業者が参加した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	727
	環境学習センター運営事業	(Ⅰ) 環境学習の拠点施設として、施設の維持管理を適切に行うことを目的として事業を実施した。 (Ⅱ) 環境関連図書・環境学習用機材の貸し出し、会議室の貸し出し等、環境学習センターを本市の環境学習の拠点施設として運営し、6,030人の施設利用者があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	12,396
	環境学習協働推進事業(再掲)	(Ⅰ) 専門的な知見を有する環境NPOと協働し環境学習を推進することを目的に実施した。 (Ⅱ) 子ども向けから一般向けを含め15事業を実施し、470人の参加があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	27
	環境フェスティバル実施事業	(Ⅰ) 6月の環境月間に啓発イベントを実施し、多くの市民の方に参加してもらうことで、市民の環境保全意識の向上を図ることを目的として実施した。 (Ⅱ) 平成30年6月2日に開催し、約5,000人の参加があった。 (Ⅲ) 6月の環境月間の中心的行事であり、継続して実施する。	3,623
	環境衛生協議会事業費補助金交付事業	(Ⅰ) 倉敷市環境衛生協議会の活動を補助することで、市民の環境改善意識の向上と活動への参加促進を図ることを目的に実施した。 (Ⅱ) 倉敷市環境衛生協議会に対する補助を通じて、清掃美化活動、不法投棄対策、飼い犬ふん害対策など、環境改善に関するさまざまな活動が展開された。 (Ⅲ) 継続して実施する。	7,286
	環境美化推進事業費補助金交付事業	(Ⅰ) 美しい街づくりを推進する団体を対象に、活動経費や器具の購入に対する補助を行うことで、市民の環境改善意識の向上と活動への参加促進を図ることを目的に実施した。 (Ⅱ) 花壇等へ花の植替えや除草の作業等を実施した、倉敷市環境衛生協議会(市内29支部)に対して補助を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,524

区分	事業名	目的(Ⅰ)／平成30年度の主な実績(Ⅱ)／今後の方向性(Ⅲ)	H30年度 決算額 (千円)
	身近な自然と水辺の保全事業	(Ⅰ) 多くの生き物の生息環境である身近な自然環境の保全・再生を進めることを目的として実施した。 (Ⅱ) 種松山野草保護移植地の管理及び自然保護監視員の連絡会議・研修、環境配慮型公共事業研修及び探鳥コース維持管理を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,881
	希少野生生物の生息・生育環境の保全事業	(Ⅰ) 絶滅の恐れのある野生動植物とその生息環境を保全することを目的として実施した。 (Ⅱ) 公共事業、民間開発におけるスイゲンゼニタナゴ、カワバタモロコ、ナゴヤダルマガエル等希少野生生物の保護対策、ミズアオイ自生地等の保護管理を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	451
	生物多様性保全対策事業	(Ⅰ) 本市の生物多様性の確保と持続可能な利用を進めることを目的として実施した。 (Ⅱ) 生物多様性審議会を開催(2回)した。倉敷市生物多様性地域戦略の冊子及び概要版(一般向け、子ども向け)を活用し、啓発に努めた。 (Ⅲ) 倉敷市生物多様性地域戦略に従い施策を推進する。	201
公創	生物多様性エコツアーの相互実施支援事業	(Ⅰ) 高梁川流域圏域において、生物多様性エコツアーを推進するため、エコツアーの開催に関心のある個人・団体に対し、実践的な講習会を実施した。 (Ⅱ) 講演会「高梁川でつながる、森・里・川・海の力」を開催し、エコツアーを実践できる人材育成を実施した。 (Ⅲ) 継続して実施する。	516
	環境学習推進事業(再掲)	(Ⅰ) 市民に環境問題に関心を持ち、理解を深めてもらうことを目的として各種普及啓発事業を実施した。 (Ⅱ) 環境NPO・企業等と連携・協力し、座学形式のものや、フィールドにおいて実際に体験して学ぶ各種講座を58講座実施し、1,075人の参加があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	3,617
公創	水素エネルギーを活用した環境学習事業	(Ⅰ) 市民に水素エネルギーに関心を持ち、理解を深めてもらうために普及啓発事業を実施した。 (Ⅱ) 燃料電池自動車や簡易水素ステーションの紹介、試乗などを行い、1,393人の参加があった。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,332
	学校・保育所等園庭芝生化事業	(Ⅰ) 地球温暖化対策と教育・保育環境の改善を図ることを目的に実施した。 (Ⅱ) 菅生小学校、郷内小学校、庄中学校の校庭、豊洲保育園の園庭に芝生を植えた。芝生化実施済みの学校・園について維持管理を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	8,639
	花と緑あふれるまちづくり事業	(Ⅰ) 道路、公共施設、街角に花や緑があふれ、住む人々や訪れた人々が緑を楽しむことができるまちづくりを目的として実施した。 (Ⅱ) 市民ボランティアに花苗290,000株、花の種30,000袋を配布し、市内を市民ボランティアの手により植えられた季節の花で飾っている。また、阿知フラワーポッケ等の市管理の花壇の充実を図った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	25,499
	緑化推進事業(花壇設置補助金)	(Ⅰ) 花と緑あふれるまちづくりを目指すため市の定める要件を満たして新設される花壇に対し、緑化基金を活用して助成を行った。 (Ⅱ) 補助金制度のPRを行ったが、申請件数は0件であった。 (Ⅲ) 補助金制度のPRを積極的に行い、継続して実施するとともに緑化基金への募金を働きかける。	0
重公創	企業誘致推進事業(再掲)	(Ⅰ) 玉島ハーバーアイランドへの低炭素型産業分野の企業の新規立地を推進し、また、市内既存企業の工場等の増設に助成を行うなど、企業誘致を推進し、地域経済の活性化や雇用の維持・創出、税収の増加を図ることを目的に実施した。 (Ⅱ) 企業立地促進奨励金5件、企業誘致促進奨励金2件、物流施設誘致促進助成金2件、設備投資促進奨励金55件、本社機能移転等促進奨励金1件の助成を行った。 (Ⅲ) 継続して実施する。	1,108,233

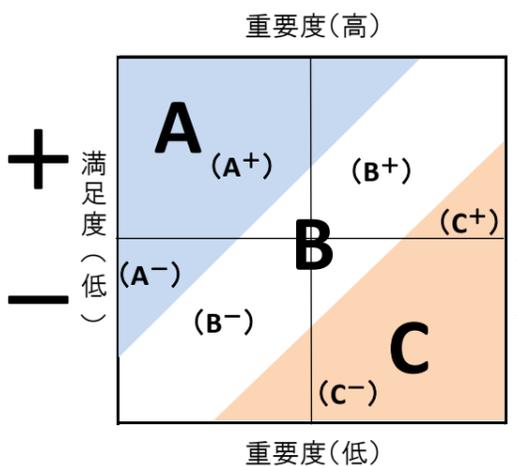
市民の重要度・満足度(R1.5アンケート調査結果)



領域	偏差値	
	重要度	満足度
C ⁻	38.60	49.61

●重要度に見合う以上の満足度が得られている(C)
●重要度が平均値より低い(-)

【グラフの見方】



A:重要度に見合った満足度が得られていない領域
 B:重要度に見合った満足度が得られている領域
 C:重要度に見合う以上の満足度が得られている領域

※ 以上の3つの領域を、さらに2つに分割(3×2領域)
 +:重要度が平均値より高い部分
 -:重要度が平均値より低い部分

A⁺, A⁻, B⁺, B⁻, C⁺, C⁻

A⁺:重要度が高く、その重要度に見合った満足度が得られていない領域

課題

- 総合計画の環境分野を担う第二次環境基本計画の遂行にあたっては、市役所内外の各主体における取組が必要である。
- 自然と共生し、恵みを次世代に引き継いでいくため、地域の生物多様性を可能な限り保全し、次世代へ引き継ぐことが必要である。
- 環境保全活動に全ての人々が主体的に取り組むことにより、環境意識を高めていく必要がある。
- G7倉敷教育大臣会合倉敷宣言を環境学習、環境教育の施策に反映し、学ぶ機会を提供するとともに、全世代に対して意識啓発を行う必要がある。特に若い世代に対しては、積極的な働きかけが必要である。

今後の取組み方針

- 環境保全推進本部、環境審議会、市民を交えた会議等の機会を捉え、環境基本計画の指標の状況などについて積極的に情報提供を行う。
- 希少な野生生物の生息環境の保全と、国内移入種を含む外来生物対策を市民やNPO等との協働により推進するなど、倉敷市生物多様性地域戦略を活用し、各主体との連携を深めることで、市域一体での効果的な生物多様性の保全を図る。
- 環境学習センターを拠点施設として、市民・事業者・行政が連携して環境学習を進める。また、G7倉敷教育大臣会合倉敷宣言を施策に反映し、幼少期からの環境教育・環境学習を積極的に推進する。